

ふるやつの川をきれいに！

市内4河川毎に河川浄化対策協議会を開催

平成25年1月30日に菱田川・前川河川浄化対策協議会、1月31日に田原川・安楽川河川浄化対策協議会の会議を開催しました。

この協議会は、流域の公民館、ふるさとづくり委員会やNPO法人などの環境保全団体、養鰻・畜産事業者など流域で事業を行っている事業者、関係行政機関で構成されています。



より活発な活動をしていく

会議内では、市の河川浄化に対する取り組み状況と安楽川・前川で昨年起きたアユの大量死に関する経緯報告がなされ、その後意見交換が行われました。「昔の川に戻したい」という思いは皆さんが感じていること。川の周辺環境を整備することで子供たちに見せられる川にできたらと考える、「事業をしている側として経営はきびしい状況。排水の浄化施設を改良する余裕はない。しかし、環境を良くしたい」と思っている。できる技術や知識を共有し協議会から発信したい」などの活発な意見が出されました。

今後は、各協議会において、河川の現地視察や現地調査をおこない、河川浄化に対する知識や意識の共通理解を深めていき、より活発な活動を展開していくことで意見が一致しました。

第3回志布志市水保全シンポジウムが開催されました

2月16日、市文化会館で「第3回志布志市水保全シンポジウム」が開催され、市内外から200人が参加しました。

水を育む、森づくり

基調講演では、サントリーホールディングス(株)の山田健氏が「水を育む森づくりサントリー天然水の森」と題して講演されました。山田氏は「サントリーは水を原料としてビール・清涼飲料などをつくる会社で、特に地下水は会社の生命線。良い水がなければ何一つ作ることができない。工場できみ上げる地下水より多い水を水源涵養エリアの森で育まなければならぬ。そのため、様々な分野の専門家とともに、森の調査・研究、整備を行っている。この天然水の森活動は、安全で安心な製品とサービスを提供する目的だけでなく、かけがえのない天然水を次世代へ残し



ていくために、未来を見据えながら続けていく活動です」と話されました。

また、福岡大学の田口幸洋教授による「平成24年志布志市地下水調査報告」では、昨年の3月から11月にかけて採取した市内に分布する湧水・地下水や河川水の調査結果が発表されました。



前川くわしたちのおもい

パネルディスカッションでは、佐藤寛氏(メダカの学校志布志分校)、松永崇利氏(霧島市立日当山中学校教諭、前志布志市立出水中学校教諭)、坂上隆氏(農業生産法人株式会社さかうえ代表取締役)、市民環境課によるそれぞれの取り組みなどを紹介



今後に向けて

今回のシンポジウム参加者からは「参加して良かった。シンポジウムを通して、改めて水の大切さを実感し、貴重な水資源を次の世代へ守り続けるために、自分のできることから始めていくことの大切さを理解することができた」などの意見が寄せられました。

市では引き続き、水環境の保全に関する各種取り組みを市民・関係機関等とともに進めていきます。



アピア前市営駐車場の資源ごみ集団収集について

市では、第1・3土曜日の7時から13時まで、資源ごみの集団収集を実施していますが、ルールが守られていないごみが出される事態が多発しています。時間外に出したり、分別されていないごみや資源ごみ以外のごみ(粗大ごみや一般ごみ)が出されるなど、非常に悪質な事例も見受けられます。



不法投棄されたごみ

そこで1月と2月の収集日前日に不法投棄監視パトロールを実施したところ、約20件の違反ごみの持ち込み事例がありました。違反者には直ちにごみを持ち帰らせ、「その行為は不法投棄(違法)であること」と正

しいごみ出しルール」を伝え、指導しました。

引き続き監視パトロールを実施し、併せて監視カメラを設置し不法投棄撲滅に取り組んでいきますが、このようなルールを守らない無秩序な事態が続くようであれば、資源ごみ集団収集そのものの在り方を検討しなければなりません。

不法投棄は違法行為です。絶対にしてはいけません！市民の皆様のご協力をよろしくお願いします。

平成25年4月から本格施行！  
小型家電は資源ごみで回収し  
ます

平成25年4月から、「コンセント又は電池電源の電子電気機器で、資源回収用コンテナに入るサイズのもの」は資源ごみの小型家電として回収します(コンテナに入らないサイズものは粗大ごみです)。

今までは電化製品は一般ごみで出せましたが、4月からは一般ごみで出すと違反ごみになりますのでご注意ください。詳しくは、市役所市民環境課(支所は市民課)にお問い合わせください。

志布志市専門家派遣レポート

2012年11月18日から29日まで、大洋州に志布志モデルを伝えるために、フィジーに行ってきた。今回はその現地での活動報告の最終回です。

国づくりは人づくり

ラウトカ市とナンディ町は、フィジー国廃棄物減量化・資源化促進プロジェクトで、志布志モデルを参考に先駆的に分別排出に取り組んだ自治体です。その両自治体職員が、研修会に参加している大洋州各国の廃棄物管理担当者、これまでの取り組みを話しました。彼らの話しぶりは、誇らしげで自信に満ちていました。国づくりは人づくりだと強く思いました。

各国での実践に期待！

今回の派遣では、①廃棄物管理においての分別排出の必要性、②結果として最終処分場の減量化・衛生面の改善が図られること、③住民と行政との共生協働の作り方、④廃棄物管理を通じてより良い地域社会を形成できることの4つを中心に伝えられました。



志布志モデル研修参加者一同

今回の派遣は、所期の目的十分に達成できたと考えており、今後それぞれの国での実践に期待するところです。今後も大洋州の取り組みをフォローしたいと考えています。